

第5学年 総合的な学習の時間指導案

期 間 5月～10月

本 時 平成16年10月5日(火)5校時

児 童 男12名、女17名 計29名

指導者 鈴木 直樹

1. 単元名

「お米博士になろう」

2. 単元のねらい

教科の学習や体験を生かし、「米」に関する課題を設定することができる。

パソコンや図書などを有効に使い、「米」について調べることができる。

調べたことを分かりやすくまとめたり、発表したりすることができる。

「米」についての学習を通して、農業や食料の問題に関心を持つことができる。

3. 単元について

5年生は社会科で「稲作にはげむ人々」について学習した。お米は言うまでもなく日本人の主食であり、様々な環境や文化に大きく影響を及ぼしている。さらに、食糧生産や食糧の確保、食の安全性などの今日的な問題も多く含んでいる。児童の家庭では農業よりも水産業に携わっているところが多いが、食糧生産にかかわるという点でこれらの問題点への関心も高いものがある。

社会科の学習を発展させ、「米」についてより詳しく学ぶことは、わたしたちを取りまく食や環境、外国との関係など多くの問題を身近なものとして考える契機となると思われる。また、実際に稲作を体験することは、食物に対する感謝の気持ちや働くことの尊さなどを感じ取れる貴重なものであり、これからの児童の生活に少なからずよい影響を与えるものと考えられる。本単元では「米」という身近な素材を通して、自分自身だけでなく地域社会や日本、外国など視野を広げて考えられるものである。

4. 児童の実態

本学級の児童は、稲作の経験はほとんどなく、苗を手で植えたことのある児童は一人もいなかった。従って、日ごろよく目にしてはいるが、どのようにして米作りが進められ、どのような工夫や苦労があるのかよく知らない状況である。そこで、地域の方から水田を借り、実際に米作りを体験しているところである。また、バケツに苗を植え、稲を育て、その成長を観察している。社会科の学習では、食料の自給の問題や安全性の問題などについて活発な意見交換がなされ、身近な問題としてとらえている児童も見られる。

児童はこれまでに「大豆」や「津波」などをテーマに、自分たちで調べたりまとめたり発表したりして、総合的な学習の時間を経験してきている。しかし、それらの技能や考え方の広がりには個人差が大きく、個別に支援を必要とする児童も見られる。特に、言葉や文章で表現することを苦手に行っている児童が多く、表現力を伸ばしていく必要がある。

そこで本単元では、調べたりまとめたりする各段階で、目的や観点を明確にし、見通しを持った活動ができるようにするとともに、共通の課題をグループで解決していくことでお互いの技能を高めていきたい。また、調べたことをもとに「米」や食糧の問題について自分なりの考えを持ち、日常生活に生かしていけるように支援していきたい。

5. 指導にあたって

本単元では実際に稲を栽培し、田植えから収穫までを体験する。その体験を通じて、稲作の苦勞や難しさを実感し、収穫の喜びを味わうことが重要な学習活動である。また一方、文献やインターネットなどでお米についての知識を広め、農業や環境などへの問題意識を持ったり、それらについての自分なりの考えを持ったりすることも大切な学習である。実際の体験と調べたことをもとに、より深く物事を考える態度を育てていきたい。

「出会う」から「見つめる」の段階では、社会科の学習や体験をもとに、お米の過去と現在について様々な課題を設定し、インターネットや図書、地域の方へのインタビューなどでくわしく調べてきた。本時は、「広げる」段階の最初である。お互いに調べたことを発表しあい、お米について詳しく知るとともに、新たな課題「未来の米作り」について考える段階である。この段階では、調べたことや社会科の学習をもとに、児童の自由な発想を引き出し、食糧問題や環境問題まで視野を広げ、お米の抱える問題点を自分の問題としてとらえ、これからの生活に生かしていけるようにしていきたい。

本単元では、社会科の内容「我が国の農業や水産業について、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかわりをもって営まれていることを考えるようにする。」と深く関連している。そこで、各指導段階で社会科での学習を振り返り、考える拠り所としたり、理解を深めたりすることに役立てていきたい。また児童の実態から、国語科の目標「目的や意図に応じ、考えた事や伝えたい事などを的確に話すことや相手の意図をつかみながら聞くことができるようにするとともに、計画的に話し合おうとする態度を育てる。」を指導の重点項目として、国語科との関連も図りながら指導していきたい。

6. 指導計画(40時間)

内容関連

スキル関連

| 流れ | 時間 | 学習活動 | 教科・領域との関連 | 具体的な単元名 |
|------------------|----|--------------------------------------|------------------------------------|--------------------------------|
| 出 会 う | 2 | 田植えや社会の学習をもとに、課題を設定する。 | 社会 (1)ア、イ、ウ | 社会 「農業のさかんな地域をたずねて」 |
| | 2 | 共通する課題ごとにグループを作る。 | 国語 | 国語 |
| | 1 | グループごとに調べ方やまとめ方について見通しを持つ。 | A話すこと 聞くこと ア | 「わたしたちは、こう考える」(話し合いの仕方) |
| 見 つ め る | 2 | 地域の人にインタビューし、稲作について理解を深める。 | 理科 A(1)ア、イ、ウ | 理科 「植物の発芽と成長」 「天気と気温の変化」 |
| | 8 | 本やインターネットなどを使い、詳しく調べる。 | C(1)ア、イ | 社会 「これからの食料生産」 |
| | 7 | 図や表を使いながら、分かりやすくまとめる。 | 社会 (1)ア、イ、ウ | 国語 |
| | 2 | グループごとに相手に分かりやすく伝える工夫をしながら、発表の準備をする。 | 国語 A話すこと 聞くこと ア B書くこと エ、オ | 「わたしたちの学校生活」(目的や相手を考えてまとめ方) |

| | | | | |
|-------------|------------------|--|------------------------|------------------------------|
| 広 げ る | 6 本時 2 / 6 | 中間発表会を開き、お米について詳しく知るとともに、新たな課題「未来の米作り」について予想し、食糧問題や環境問題まで考えを広げていく。 | 国語 A話すこと・聞く こと ウ | 国語 「こども環境会議を開こう」(話し合いの仕方) |
| | 4 4 2 | 「2100年の米作り」発表会を開く。 稲刈り、脱穀などの作業をする。 とれたお米を自分たちで調理して、お世話になった人を招き、会食をする。 これまでの学習を振り返り、一人ひとりがお米についての考えをまとめ、発表し合う。 | 家庭科 (5)エ | 家庭科 「作っておいしく食べよう」(白米の調理) |

7. 評価規準

| 流れ | 主な活動 | 課題を見つける力 | 問題を解決する力 | 豊かに表現する力 | 生き方を考える力 |
|------------------|-------------------------|--|--------------------------------|---|---|
| 出 会 う | 課題の設定 | ・お米について、教科の学習や体験をふまえて自分なりの課題を設定することができる。 | | ・自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができる。 | |
| 見 つ め る | 課題の追求 課題を調べる まとめ1 | | ・本やインターネットを用い、課題を解決する調べ学習ができる。 | ・相手に分かりやすく伝えることができる。 ・よさに注目して話を聞くことができる。 | ・お米のすばらしさや先人たちの苦勞を知り、食べ物に対する自分なりの考えを持つことができる。 |
| 広 げ る | 中間発表会 収穫・会食 まとめ2 | ・これからの食糧問題について関心を持つことができる。 | | ・活動全体を通して自分の考えを持ち、発表することができる。 | ・未来の米作りを考え、環境や食糧問題を身近な問題として考えることができる。 |

8. 本時の指導

(1) ねらい

お米について調べたいことを発表し合い、詳しく知ることができる。
 未来の米作りについて、調べたことや学習したことをもとに予想することができる。

(2) 基礎・基本の定着を目指して

国語 A 話すこと・聞くこと

ア 考えたことや自分の意図が分かるように話の組み立てを工夫しながら、目的や場に応じた適切な言葉づかいで話すこと。

(3) 本時の流れ

導入では、前時に引き続き中間発表を行うことを確認する。その際、発表内容や発表の仕方について相互評価を行い、互いの発表のよいところを見つけるように意識させる。

展開では、それぞれのグループの発表から、過去や現在のお米について詳しく知ることができたことを確認し、新たな課題「未来の米作り」について話し合う。その際、社会科の学習を想起し、お米作りの抱える食料確保・安全性・環境などの問題点に触れ、話し合いの焦点化を図っていく。自由な発想を大切にしながら、問題点をどのようにすれば解決できるか意見交換をして考えを深めていきたい。

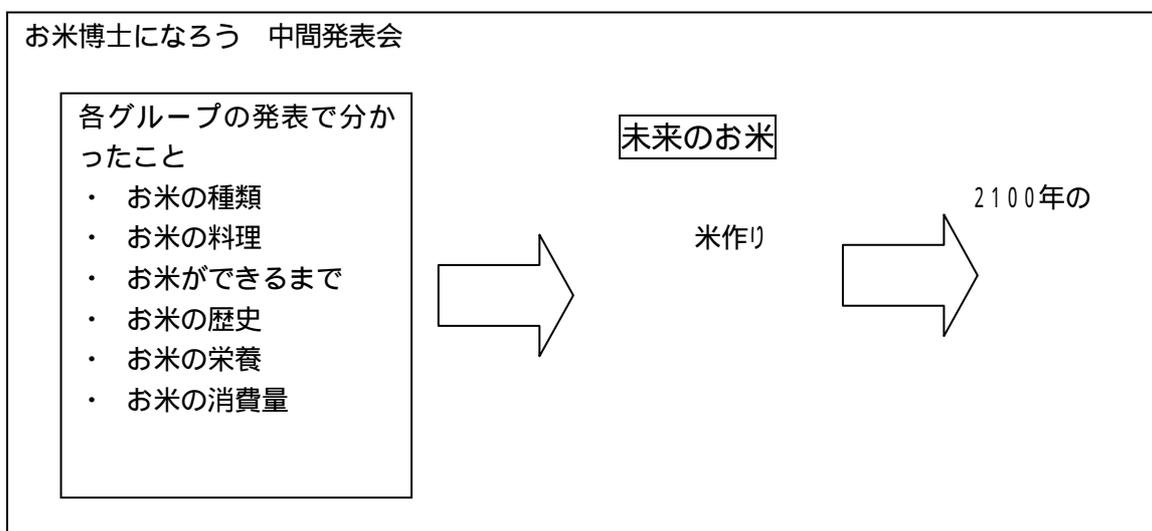
終末では、「未来の米作り」をどのようにまとめるかについて学習の流れを確認し、本時の学習の自己評価を行う。

(4) 展開

| 段階 | 児童の活動 | 支援 | 基礎・基本の定着 | 評価 |
|----------|---|--|----------|---|
| 導入 8 | 1. 前時に続き、中間発表会を行う。 2. グループごとに調べたことを発表する。 | 相手に分かりやすく、発表したり、発表者のよいところに目を向けて聞いたりするように確認する。(相互評価カードに記入する。) | | ・相手に伝わるように発表したり、発表内容からお米について詳しく知ったりすることができたか。(発表・評価カード) |
| 展開 27 | 3. 各グループの発表をふりかえり、話し合う。 ・詳しく知ることができたこと、発表のよかったところを確認する。 4. 「未来の米」について考える。 ・未来の米はどうなっているか問いかける。 | 過去や現在の米作りでわかったことをカードをもとに発表させる。 各グループの調べた内容や社会の学習内容を想起し、話し合いの焦点化を図る。 食料確保・安全性・環境について、視野を広げて考えるように助言する。 自分の予想を理由を付けて、発表させる。 | | ・未来の米について考えることができたか。(発言・挙手) |

| | | | |
|--------------|---|--|--|
| 終 末 10 | <p>5. 新たな課題「未来の米作り」について、学習の見通しを持つ。 ・「2100年の米作り」発表会をすることを知らせる。</p> <p>6. 自己評価をする。</p> <p>7. 次時の予告をする。 ・グループ毎に、予想をまとめる。</p> | <p>グループ毎に、絵や文で未来予想図を作り、発表し合うことを知らせる。 近未来に限定し、現在の問題点を解決する予想になるよう助言する。</p> <p>本時の学習を振り返り、自己評価する。</p> | |
|--------------|---|--|--|

9. 板書計画



「お米博士になろう」学習プリント

名 前

あなたのテーマは？

1. あなたは、未来の米がどうなっていると思いますか。自由に書きましょう。

2. 今日の学習を振り返りましょう。

(1) 未来のお米について、予想することができましたか。

できた できなかった

(2) 自分の予想を発表することができましたか。(ハンドサインを使いましたか。)

できた できなかった

(2) 友だちの発表は参考になりましたか。

すごく参考になった まあまあ 参考にならなかった

(4) 今日、発表をがんばっていた人はだれですか。

先生から